

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

現代 / 世界とは何か? — 人文学の視点から

2. 研究代表者氏名

山室信一、小関隆

YAMAMURO Shinichi, KOSEKI Takashi

3. 研究期間

2015 年 04 月 - 2018 年 03 月 (1 年度目)

4. 研究目的

本研究班は「第一次世界大戦の総合的研究」(2007~2015 年)の成果を引き継ぎ、それをより大きな現代史 / 20 世紀史の文脈で検討することを目的とする。「一体化した現代世界」をつくりだした「現代の起点」たる第一次大戦によって惹起された諸問題のあるものは克服され、あるものは 100 年後の今日まで残存し、またあるものはその相貌を変えた。本研究班が検討の遡上に載せる具体的なテーマとして想定されるのは、デモクラシーの変容、グローバリズムとローカリズム / ナショナリズムの相克、パラミリタリ暴力とテロリズムの台頭、プロパガンダと大量消費社会のかかわり、テクノロジーの暴走、モダニズムの命運、等である。「近代」と「現代」の連続性と非連続性、あるいは両者の地域的な相違も重要なテーマとなりうる。また、「人文学の視点から」というサブタイトルが含意するのは、第一次大戦によって「ヨーロッパ諸学の危機」(フッサール)がもたらされた状況を受け、今日の人文学は現代 / 世界に対して何をいいうるのか、という存在論的な問いである。

This project intends to further develop the academic achievements of the previous project, 'A Trans-disciplinary Study of the First World War', and to examine them in the larger contexts of modern/twentieth century history. As a foundational moment of the 'modern world', the First World War brought about various 'modern' questions, some of which have been resolved, while others remain unresolved. Some of them have changed their appearance, keeping their essence intact. Topics to be examined in our project are: the transformation of democracy, the changing relationship between globalism and localism/nationalism, the rise of paramilitary violence and terrorism, the rise and decline of 'modern' arts, the continuity and discontinuity between 'kindai' and 'gendai', and so on. The subtitle of the project, 'from the viewpoint of humanities', implies an ontological

question, that is: in the age following ‘the crisis of European sciences’ (Edmund Husserl), can humanities effectively tackle the questions posed by the ‘modern world’?

5. 本年度の研究実施状況

2015年4月25日の旗揚げ研究会以降、1916年1月18日までにトータルで11回の研究会を開催した(2016年2月までにさらに2回を予定している)。時には大会議室の利用が必要になるほどの数の出席者を得、各回の報告・討論も充実した内容であった。2015年度の実施にかかわって特筆すべき点には、「環世界の人文科学」班とのジョイント開催(2015年7月18日)があったこと(2016年度2月15日にも予定されている)、また11月28~29日に国際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛争: ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」(関西学院大学)を共催したこと、がある。2016年度にもジョイント開催を継続するとともに、国際シンポジウム(「東アジアにおける歴史認識と歴史教育(仮)」)の企画も進行中である。

7. 本年度の研究実施内容

2015-04-25

人文学における空間性と時間性: 研究班の課題 発表者 山室信一

2015-05-08

ポスト第一次世界大戦の世紀: 戦間期からポスト冷戦期まで 発表者 小関隆

2015-05-22

音楽史において第一次大戦は現代の起点だったか: 1970-90年の連続性と非連続性を中心に
発表者 岡田暁生

2015-06-13

現代世界史への視点: 「長い二〇世紀」論とその周辺 発表者 木畑洋一

2015-06-29

“Post-War Restitution and the Long Shadow of the Nazi Past in Austria” 発表者
Oliver Rathkolb ウィーン大学

2015-07-18

レールに身体を横たえて: 鉄道自殺の技術論 発表者 瀬戸口明久

日本近世における複合生業: 近世の中国山地から現代を考える 発表者 岩城卓二

2015-10-10

アフター・リベラリズム?: 啓蒙の世紀からポスト68年へ 発表者 王寺賢太

2015-10-24

「世界」の始まりと終わり: 「作者とは何か」(フーコー)と「万物の終わり」(カント)から現代世界を考える 発表者 佐藤淳二 北海道大学

2015-11-13

統治される人びとの生政治?? : ポストコロニアル的大衆の時代としての現代 発表者
田辺明生 アジア・アフリカ地域研究研究科

2015-11-28 国際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛争: ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」

2015-11-29 国際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛争: ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」

2015-12-11

「近代美術/史」とは何である/あったか? 発表者 高階秀爾 大原美術館

2016-01-15

大戦間期イギリスにおける社会サービスの成立: 「福祉の複合体」の現代的再編と公共精神
発表者 高田実 甲南大学

2016-01-30

「中国の近代と日本の近代」の現在 発表者 小野寺史郎 埼玉大学

2016-02-13 国際ワークショップ「東アジアにおける叙述と歴史」

2016-02-15

「自然・神霊・人工物のアッサンブラージュ: 「近代批判」としての呪術論を超えて」 発表者 石井美保

8. 共同研究会に関連した公表実績

- ・国際カンファレンス

「歴史と記憶の政治とその紛争: ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」(2015年11月28、29日、関西学院大学)

- ・国際ワークショップ

「東アジアにおける叙述と歴史」(2016年1月30日、京都大学人文科学研究所)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機 関 数	参加人数				延べ人数			
		総計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	総計	外国人	大 学 院 生	若 手 研 究 者
所内	1	21 (6)	1 (1)		2 (1)	153 (47)	13 (13)		15 (6)
学内(法人内)	4	5 (1)				20 (3)			
国立大学		21 (4)		1		78 (32)		5	
公立大学	12	1							
私立大学		30 (11)				96 (44)			
大学共同利用 機関法人									
独立行政法人 等公的研究機 関	1	5 (2)				33 (14)			
民間機関									
外国機関	4	4 (2)	2	1 (1)		13 (7)	3	5 (5)	
その他									
計	22	87 (26)	3 (1)	2 (1)	2 (1)	393 (147)	16 (13)	10 (5)	15 (6)

※ () 内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	95(69)
国際学術誌に掲載された論文数	15(8)

※ () 内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

13. 次年度の研究実施計画

2 016 年度の本研究班のスケジュールは既に確定しており、2015 年度と同じく月 2 回のペースで例会が開かれる。そのうちの 2 回は人文研アカデミーの企画として公開のかたちをとる。これもまた 2015 年度からの継続になるが、「環世界の人文学」班とのジョイント研究会も予定している。さらに、11 月 4～5 日には、「東アジアにおける歴史認識と歴史教育」と題する国際フォーラムを開催し、国境を越えた知見の共有を目指す。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 14 回 国内出張旅費 (延べ 46 人)	支出予定額 (420,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費 (延べ 5 人)	支出予定額 (100,000 円)
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費 (延べ 人)	支出予定額 (円)
	招聘旅費	招待人数 (延べ 0 人)	支出予定額 (円)
謝金 (講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (80,000 円)
消耗品等経費			支出予定額 (円)
その他			支出予定額 (円)
合計			600,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班の実施予定は 2015 年 4 月～2018 年 3 月となっており、最終的には 3 年間の活動を踏まえて論集のかたちで研究成果を公開する予定である。論集の内容に関する議論にも 2016 年度のうちに着手することになる。また、中間的な研究成果公開の形態としては、13 でも言及した 11 月 4～5 日の国際フォーラム「東アジアにおける歴史認識と歴史教育」がある。この国際フォーラムは、2015 年 11 月 28～29 日に開催した国際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛争：ユーラシアをめぐる東西の対比と対話の試み」の延長線上に位置づけられる。